

農場でのロープワーク

こんにちは

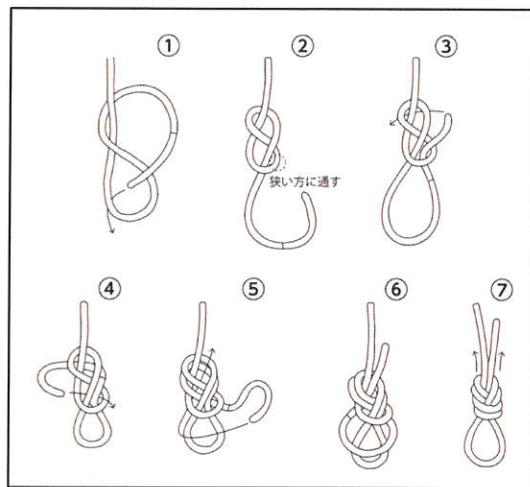
私は学生時代、山岳会や山岳部に所属しており、冬山から沢登りまで（そんなに大変な山行ではありません）かじっていました。そこで、山登りでもよく使い、酪農場でも自分が割と使っているロープワークを少しまとめようかと思います。

① エイトノット (Eight knot)

クライミングで多様されている。ロープの先端に輪っかを作る結び方です。クライマーのハーネスとロープと結ぶ時に使われています。もやい結びより簡単に作ることができます。まずは名前の通り、ロープの先端で八の字を描くようにして、②で狭い方に通した後1つ目の八の字を沿うように末端を運びます。



きれいに八の字を作ることが、ほど
きやすくするコツだそうです。



日本×ホーマ茨調協会 <https://www.ipspport.go.jp/touzaken/PentaX/0/images/content/yosaku/2015/text/text3-5.pdf>

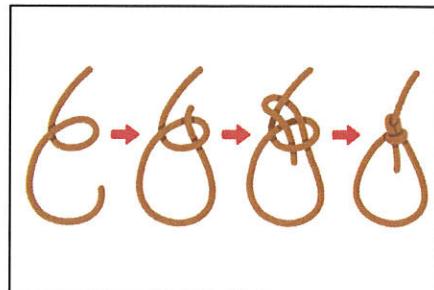
② もやい結び (Bowlineknot)

もともと船を係留する際によく使われてきた結び方です。船を繋げるほど引っ張られる力に強く、ほどきやすいのが特徴です。King of knot や Bowlineknot とも呼ばれます。
「下下下上」と覚えるそうです。図で言うと、

上（末端の逆側）のロープを下にして輪っかを作り、末端を輪っかの下から通し、下のロープ（末端の逆側のロープ）の上を通し、完成です。



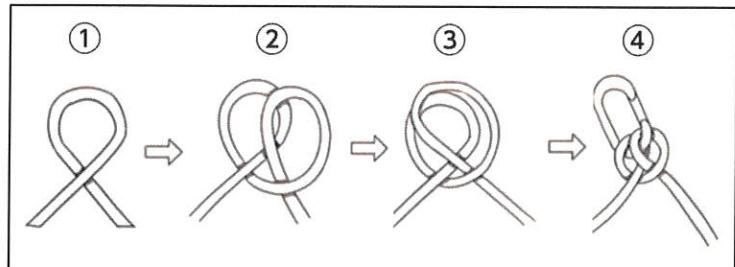
エイトノットよりもぱっと見では正しく結ば
れているのか判別が難しく、すっぽ抜けによ
るクライミングでの死亡事故があったそう
で、今ではエイトノットが主流になっている
とのことです。



いらすとや

③ クローブヒッチ(Clove hitch)

巻き結びのことです。モクシを柱などに固定する際に使います。簡単に結べますが、ロープの片一方にのみ荷重があるとほどき辛いという欠点があります。



日本スポーツ振興会 https://www.jpsport.go.jp/torazaki/Pearl0/images_contents/vsaij/2018/text/text3-o.pdf

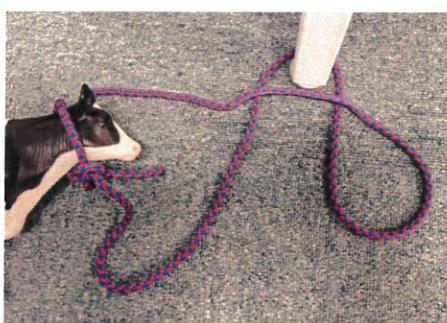


この縛り方で保定して牛が倒れるとなかなか解けないので、元気な牛や子牛で使うようにした方がいいかもしれません。

④ 馬繋ぎ結び (Hitching tie)

馬がつながっている方を強く引っ張っても解けませんが、反対側を引っ張れば簡単に解くことができます。

つまり、普段、私たちが何気なくやっている、ロープの末端を引っ張ると解ける結び方です。実は馬繋ぎ結びというらしいです。





- ・ロープを柱の左側から巻きつけ、先端が牛側のロープの上になるように交差させます。
- ・輪っかの右下に小さな輪っかを作ります。この時も末端側のロープが牛側のロープの上になります。
- ・ロープの末端を二つ折りにして、作った輪っかへ通します。

(以上こんな感じで私が使っているロープワークを羅列してみました。

カラビナや ATC と組み合せれば、安全でかつ省エネで牛を保定できそうなので今後研究してみようかと思います。ロープワークは文面ではどうしても分かりにくいので、youtube で検索してみることをお勧めします。

望月